

平成26年度 福島県社会教育研修会（本宮市）

対象は、
学校支援関係者
社会教育関係者

参加者総数
47名

と き：平成26年10月3日（金）

と ころ：本宮市中央公民館

本宮市では、「学校支援ボランティアの充実に向けて」をテーマに社会教育研修会（学校支援ボランティア研修会）を開催しました。

1 講 話

「学校支援地域本部の現状と課題」

県北教育事務所 社会教育主事 大和田康夫

- ①学校支援地域本部事業の目的
 - ・学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。
 - ◇設置状況 = 県内（18市町村 24本部） 全国（619市町村 3,527本部）
- ②学校支援地域本部事業の実施と効果
 - ・地域住民 …… 生涯学習社会の実現、地域教育力の向上（知識や体験を生かす場）
 - ・子どもたち …… 規範意識やコミュニケーション能力の向上（体験や経験の機会を得る）
 - ・学校（教員）… 学校教育の充実（教育活動により一層、力を注ぐことができる）
 - ◇実施内容 = 学習支援・クラブ活動支援・環境整備・学校生活安全支援など
- ③学校支援地域本部事業の課題
 - ・支援を受ける学校（学校自らの意識改革、地域に開かれた学校運営）
 - ・コーディネーター（学校運営の理解、支援体制の整備、資質の向上）
 - ・支援ボランティア（ボランティアの人材確保、子どもの特質の理解）
 - ・その他（広報活動の充実、情報交換の場の拡充、各種団体との連携）



2 活動報告

「平成26年度本宮市学校支援地域本部事業の実施状況」

生涯学習センター 社会教育係長 菊地義一 氏



- ①事業目的（地域につくられた学校応援団）
 - ・学校の先生方が子どもとしっかりと向き合える時間の確保
 - ・地域全体で学校教育を支える体制づくり
 - ・地域のきずなを深め地域の教育力の再生
- ②支援体制
 - ・学校支援地域本部の設置（コーディネーター 3名配置）
 - ・体験活動・ボランティア活動支援センターの設置（コーディネーター 3名配置）

③実施状況

- ・平成26年9月末現在 実施件数（59件） 参加ボランティアのべ数（235名）
- ・平成25年度実績 実施件数（129件） 参加ボランティアのべ数（944名）

3 事例発表

「五百川小学校における戦争体験談授業について」

本宮市学校支援地域本部コーディネーター 鈴木友紀 氏
ボランティア実施者 大塚道子 氏 本田文子 氏

- ① コーディネート（依頼 ⇒ 人材を探す ⇒ 打合せ ⇒ 実施 ⇒ 報告）
 - ・依頼内容（戦争体験談の授業）
 - … 五百川小学校 6年（56名）3.4時間目の授業
 - 戦争当時の本宮の様子や生活を知る。
 - 本宮に空襲が来たときの様子を知る。
 - 当時使われていたものに触れる。
- ② 授業内容（大塚道子 氏）… 小学校1年生の頃の体験談 ※本宮空襲 昭和20年4月
 - ・お手製の世界地図や本宮空襲があった旧グンゼ工場周辺の地図をもとに説明した。
 - ・空爆の近くに自宅があったので、目にした悲惨な状況を女の子の視点から話した。
 - ・本宮にも空襲があったこと、絶対に戦争を起こしてはならないことを話した。
- ③ 授業内容（本田文子 氏）… 成人になったばかりの頃の体験談
 - ・物のない当時の暮らしの様子や当時着ていた服装や品物に触れさせながら説明した。
 - ・空襲直後に救護班として活動した時の悲惨な体験について話をした。
 - ・子供たちに平和を願う日本として、国際人として育ってほしいと願いを込めて話した。



4 意見交換会(グループ協議)

テーマ「学校支援ボランティアの充実に向けて」



○1班(学習支援関係者)

進行及び助言・まとめ : 県北教育事務所 主任社会教育主事 佐藤亮治

報告者 : 学校支援本部コーディネーター 佐々木菜穂子 氏

◇礼状が嬉しい。 ◇ボランティアをして自信がついた。

◇学校支援を続けていきたい。今後も子どもたちに教えていきたい。(水墨画)

◇子どもたちが真剣に取り組み、驚いたり、喜んだりする顔が見れて嬉しい。

◇集中して聞いてくれ、授業の内容も良かったと言ってもらえて嬉しかった。

◆子どもに教える際、子どもの心をつかむのが難しい。

◆単発的な授業だと、どこまで指導して良いか分からない。(書道)

◆ボランティアしてどこまで授業してよいのか、先生との係わり方も悩む。

※学校との打合せを詳細にすべき。

○2班(環境整備・安全支援関係者)

進行及び助言・まとめ : 県北教育事務所 社会教育主事 大和田康夫

報告者 : 体・ボラ支援コーディネーター 鈴木由美子 氏

◇子どもから元気・エネルギーをもらっている。

◇町で会った時、声をかけられるのが嬉しい。

◆参観日の託児の際、忙しいのか親のあいさつがないときがある。

◆環境整備などは、特に PTA との交流も必要ではないか。

○3班(体験活動支援関係者)

進行及び助言・まとめ : 県北教育事務所 社会教育主事 小野忠大

報告者 : 体・ボラ支援コーディネーター 山崎由美子 氏

◇あいさつをしてくれるようになった。◇子どもたちとの触れ合いが嬉しい。

◇子どもたちのやる気が見え、楽しく活動している。

◆社協との連携がもっと必要ではないか。(ふれあいサロン)

5 終わりに

○ 今回の研修会は、学校支援地域本部事業や体験活動・ボランティア活動支援センター事業の活動状況を振り返り、子供たちの変化の様子や日頃の活動の様々な課題等について、参加者の意見交換を通して共有することができ、更に充実した学校支援活動に結びつく研修会となりました。

○ 学校支援活動は、支援内容の幅が広いので、意見交換の時間がもう少し取れば、それぞれの活動の違いについて多くの意見交換ができ、更に充実した研修内容となったのではないかと考えられます。今後も研修会や意見交換の機会を計画していきたいと思えます。